

(仮称)上用賀公園施設整備事業基本構想 概要

| 計画条件 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 拡張計画地の位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区基本計画における「国際スポーツ交流の軸」 ・みどりの基本計画等における「みどりの拠点」「生きもの拠点」 ・広域避難場所 ● 敷地条件・立地条件 <ul style="list-style-type: none"> ・ひな壇状の地形。敷地内と外周の所々に大きな樹木 ・用途地域上、体育館の整備には許可が必要 ● スポーツ施設の現況 <ul style="list-style-type: none"> ・中規模体育館と屋外グラウンドの不足 |

| スポーツ施設に関するアンケート調査 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民 <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりへの関心が高い。 ・個人利用のニーズが高い。 ・多様な交流や集いの場となる施設を要望。 ● スポーツ施設利用団体 <ul style="list-style-type: none"> ・大会が実施できる広いアリーナ ・観客席の設置 ・ユニバーサルデザインへの対応。 |

| サウンディング調査 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● サウンディング調査結果の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・拡張計画地は多数の参加事業者が高い関心。 ・事業手法としては、PFI手法(BTO方式)、DBO方式、公募設置管理制度(Park-PFI)などの提案が寄せられた。 ・スポーツ施設と公園を一体的に整備・運営・維持管理することが望ましいと、ほぼすべての事業者から意見。 |

| 計画課題 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 既存のみどり、地形を活かす。 ● 敷地面積、公園施設の設置基準等により、建物規模の制約がある ● 用途地域上、体育館の整備には用途制限がある ● 中規模体育館と屋外グラウンドの整備が必要 ● 総合運動場・大蔵第二運動場一体化整備との機能分担を考慮 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 区民・地域住民の健康づくりのニーズに対応した施設 ● ひとりでも気軽に利用できる利用形態 ● 全区的なスポーツ大会に対応可能な施設機能 ● 多目的に利用可能な施設機能 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 従来の施設整備手法に加え、PFI・DBO・Park-PFIなど官民連携手法による事業実施についても、より詳細を調査し、比較検討の上、導入の是非について検討する必要がある。 |

| 施設整備における基本方針 | | |
|---|--|--|
| <p>(1)安全・安心の公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園広場や体育館など広い空間を活用した、災害時における広域避難場所やその他災害応急活動に資する施設機能の整備 ・平常時における防災訓練等、地域の防災活動が可能なスペースの確保 ・セキュリティやユニバーサルデザインに配慮し、だれもが安全・安心に利用できる公園づくり | <p>(2)みどりをつなぎ、ひろげる空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の緑、地形を活かした施設整備・景観形成 ・地域の魅力を高める施設の整備 | <p>(3)スポーツを中心としたレクリエーションの空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民大会など全区的な大会が可能な体育館の整備 ・多様なスポーツやレクリエーション活動ができる多目的広場の整備 ・いつでも、だれでも健康づくりやコミュニティ活動が可能な施設の整備 ・障害者スポーツの推進につながる施設機能の確保 ・周辺住民への丁寧な情報提供や意見交換の実施、住環境に配慮した施設計画 ・区立スポーツ施設としての公平なサービス提供 |
| 施設整備の考え方 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 主要施設の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設・防災施設(区が求める機能) 体育館(アリーナ、観客席、トレーニング室、多目的室など)、多目的広場、防災倉庫、防災広場 ・公園施設(今後検討) レクリエーション広場、エントランス広場、園路、駐車場、トイレ、収益施設ほか | <ul style="list-style-type: none"> ● 施設配置の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の緑を極力残し、現況の地形を活かせる配置 ・近隣への影響を考慮した施設配置(日照、騒音等) ・造成が少なくなるような配置 ほか ● 施設配置(ゾーニング) <ul style="list-style-type: none"> ・施設配置の考え方をもとに検討する。 ・今後、地域住民等とも対話をしながら最終的に判断。 | |
| 事業手法の検討 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 事業手法 <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者が主体的に整備・運営することに、経費面で一定のメリットが得られると判断。 ・民間事業者の提案やノウハウを活かす余地が多く、民間事業者の事業による新たなサービスや付加価値も期待 ● 事業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度に導入可能性調査を実施し、さらなる詳細検討を進め、事業手法を判断 | | |

